



入学試験から見える新しい学力とは

今回は入学試験の話です。小学校1年生にとってはまだまだ先の話ですが、入学試験の様子を見ると世の中が学校教育に何を求めているのかがわかります。毎度カタイ内容の話で申し訳ありませんが、しばしお付き合いを……。

1月15、16日は大学入学共通テストが行われます。1990年から2020年まで実施されてきた「大学入学者選抜大学入試センター試験」ですが、2021年からは「大学入学共通テスト」に代わりました。(共通テストは私たちの世代にとっては懐かしい呼び名です。)この共通テスト。始まる前は国語と数学の記述式問題導入見直しと英語民間試験の活用が目玉だったのですがコロナ禍の影響もあり、現在では以前と変わらないマークシート形式のテストになっています。マークシートといっても単純な選択式のものではないようです。暗記教科といわれた社会科や理科でも単純な知識では解けない、思考力が問われる問題が出題されています。過去問はWebでも公開されていますが、以前とはかなり違った感じの問題です。興味のある方はQRコードを貼っておきますので、是非ご覧ください。日本史なんかお勧めです。



また、高校入試も今年度から日程が大きく変わっています。公立の前期選抜は1月24日、後期選抜は2月24、25日と一週間早く実施されます。それに合わせて私立も特待、専願は1月19日、一般が2月15、16日となっています。最も早い県北の私立高校は1月14日です。コロナ対策の一つとして追試日の確保がその理由です。また大きな課題として、多くの高校で生徒数の減少にストップがかからず、どの高校も教育水準の維持・向上に不可欠な、生徒数の確保に頑張っておられるようです。特に熊本市外の高校の多くが定員割れを起こしている状況は、ひと昔では予想できないものです。高校再編に取り組んだ熊本県の施策も結果的には課題を解決しているとはいいいがたいと思います。

そもそも、こうした入試改革や学校再編は、ある社会現象の課題を解決するために始まっています。それは「人口減少」です。地球規模では人口爆発は進行しています。2012年ころに70億を超えた世界人口は2025年に81億、2050年に96億、そして2100年には109億に達すると予想されています。しかし、日本の人口は、2004年の1億2784万人をピークに減少に転じました。2050年には1億人をわり、2100年には多く予想してもピーク時の半数の6407万人になるといわれています。このような人口減少社会では仕事の効率を大幅に向上させることが必要になることは間違いありません。つまり、周囲の人とコミュニケーションを図りながら課題を見出し、持続可能な社会の在り方を模索しつつ、自己実現を図り、主体的に生きる力が必要になると考えられています。言い換えれば、新しい学習指導要領に示された、三つの資質・能力が必要になるわけですね。そしてその成果を確認するのが高校や大学の入学試験というわけです。ですから、これまでの知識量を問う問題から、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力や人間性等が問われるようになってきたわけです。

私は、入学試験や就職試験には、全くいい思い出がありません。第一希望をストレートに達成したことがほとんどないからです。でも、挫折したたくさんの経験が今の自分の中に生きています。実際、試験で不合格となること、ひいては自分の弱さが明らかになることは、とてもつらいことです。それでも目標を持ち続けること、現状の中で自分なりの精いっぱい努力を続けることの大切さを経験から学ぶことができました。そして、自分の考えや思いを伝えることが、自分を支えていただけの仲間を増やすことになることも学ぶことができました。人は経験の中で学びます。学校の学習も一つの経験ですが、日常生活の中にこそ本当の学びがあります。日々の暮らしを学びにすることが、人としての成長につながることを、私自身もこれから大切にしていきたいと感じているところです。